

Case Study

支部ケース・スタディ

信越支部

まちづくり会社をめざして ～新事業領域への挑戦～

(株)Goolight

経営企画本部 次長

岩下 正志



2018年10月に「須高ケーブルテレビ株式会社」から「株式会社Goolight」に社名変更をしました。これには、開局30周年を迎え、「須高(すこう)」という地域と「ケーブルテレビ」というサービスを基盤にしながら、地域にとって欠かすことのできない存在となるために新しい事業領域へ挑戦していこうとする強い思いが込められています。

地域連携について

(1)「高山村×女子美術大学×Goolight」産学官連携事業

2006年から始まった本事業は、「学生の視点からアートで町おこし」をキーワードに、女子学生が毎年季節ごとに高山村を訪れ、バスストップギャラリーの制作や、高山村産100%のワイン醸造・オリジナルラベルの制作、リンゴやブドウのパッケージデザイン制作など様々な活動をしています。当社は、高山村の情報発信とブランディングを企画・運営しており、この13年間で延べ750人の学生および大学関係者が参加し、村民とも交流を深めていき、すっかり溶け込んでいます。



左：バスストップギャラリープロジェクト 中：ワイン醸造プロジェクト(古式ワインぶどう踏み) 右：ぶどうパッケージデザイン

そして、2017年からは新たな連携事業として、女子美大と提携交流を進める国立台湾芸術大学との交流の中で、ポスターやワインラベルなどの共同制作などを行い、国を越えた学生の視点により高山村の魅力を台湾へ発信しています。その活動の様子は、4K番組として制作し、総務省の放送コンテンツ海外展開事業を活用して台湾の地上波局「民視無線台」で放送をしました。



左：女子美大と台湾芸大が共同制作した高山村産ワインのラベル 右：「芸術ガールがつなぐ日台交流～信州高山村」(4K番組)

(2)信州須坂プロモーション事業

2012年から須坂市より「シティプロモーション事業」を受託しています。この事業では、県外でのイベント出展や須坂市をテーマにした番組の放送を通じて、須坂市への観光誘客を目的としています。須坂市は、ブドウやリンゴが長野県内でも有数の産地のため、イベントでは農産物や特産品の販売を通じ信州須坂を知って

もらうとともに、当社が制作したPR映像も上映し、ケーブルテレビならではのPRをしています。今年も東京・名古屋・横浜・富山県高岡市にてイベント出展を行なっています。高岡市での「日本海高岡なべ祭り」には、事業開始から毎年参加しており、信州須坂の郷土食「ひんのべ汁」を求め、多くのリピーターが訪れるほどになりました。また、ケーブルテレビのネットワークを活用し、各地のケーブル局のコミちゃんに出演してイベント出展の事前PRをさせていただいたりしています。



左：イベントの様子 中：信州須坂の農産物等の販売を通じてPR 右：各地のケーブル局と連携したPR(JCOM東京北局様にて)

さらに映像制作では、国の名勝に指定された米子大瀑布の四季をドローンで撮影した番組や、陸上競技をはじめ様々なスポーツ競技で効果が認められている「高地トレーニング」のメッカとなっている峰の原高原の魅力を4K番組として制作し、「ケーブル4K」で全国放送したり、観光協会と連携してWEB配信向けにフルーツ狩りや味噌作り体験などのプロモーションビデオの制作をしたりと、ケーブルテレビだからこそできるPR展開をしています。



左：2018年制作 天空のリゾート地～信州須坂 峰の原高原の魅力～ 中・右：体験ツアーのプロモーションビデオ制作

(3)小布施町とのまちづくり連携

現在、小布施町では中心部を走る国道403号の整備を進めています。今ある建物を極力壊さない、車道の幅を変えない、歩道の段差をなくす、電柱をなくすなど“小布施らしい道”をつくるべく、月に1回の有識者会議が開催され当社も参加しています。小布施町とは、まちづくりに5GやIoTの最先端技術を取り入れていくことで一致しており、光回線、地域BWA、5G等の通信インフラを駆使して、見守りなどの生活支援サービスをはじめ、防災拠点の整備や“小布施らしい道”に自動運転を取り入れるなど未来都市型のまちづくりを一緒に考えています。



小布施町国道403号整備事業

2018年8月には「エネルギーの地産地消と地域内での経済循環を」という考えのもと、全国で自然エネルギー発電所を展開する自然電力(株)と小布施町、Goolightの3者で「ながの電力株式会社」を設立しました。エネルギーの地産地消としては、自然電力が小布施町内に「小布施松川小水力発電所」をつくり、小布施町の10分の1ほどにあたる300世帯分の電力発電を開始しました。当社の役割としては、従来の放送・通信サービスに加えて、地域BWAサービスなどの無線事業や見守りなど、電力を連携した生活支援サービスを展開していくことです。また、ながの電力としては、「人と自然エネルギーが心地よくつながるまち」を目指し、小水力発電所に加

えて、小布施町の公共施設の屋根に太陽光パネルを設置し、発電した電力を施設で使用してもらうとともに、電源の一部としていき、自然エネルギー100%の実現を進めています。

地域スポーツ振興として “スラックライン”を全面的に支援

2017年9月、アジアで初開催となる「スラックラインワールドカップジャパン フルコンボ」が小布施町で開催され、当社も共催として大会運営に携わるとともに、大会の様様を2日間計15時間にわたり「ケーブル4K」にて全国へ生中継をし、Facebook LiveによるIP生配信を同時に行いました。そして、今年9月には2回目となるワールドカップが開催され、前回に引き続き4K生中継とIP生配信を行いました。中継にあたっては、全国から総勢約80名のスタッフが集まって、最大12台のカメラを駆使し行ないました。



小布施松川小水力発電所



左：4K中継車
中：生中継映像
右：全国から総勢約80名の
中継スタッフが集結

さらに今年も、KDDI株式会社と連携して、総務省の5G総合実証試験のフィールドとしても展開をしました。スラックラインに“5G”を導入することで、新しい観戦体験として、選手の高精細映像に技の難易度、ジャンプの高さ、技の連続回数を合成し、5G高速大容量を活かしてリアルタイムに伝送すること、観戦者がラインの振動をリアルタイムで疑似体験できるよう、5Gの低遅延性を活用して観戦席にリアルタイムに伝送する試験を行いました。体験された方からは、選手の演技を生で見ながら視覚以外で体感でき、新しい楽しみ方などの評価の声をいただきました。



左2つ：5G端末と振動を体感している様子
右：大型ビジョンに技の難易度、ジャンプの回数などリアルタイムで表示

まちづくり会社をめざして

Goolightが考えるこれからのケーブルテレビは…

- [1]地域の課題解決(放送通信ネットワーク+人のつながり)
 - [2]競合他社との差別化(サポート力+コンテンツ力+自治体連携)
 - [3]有線(光) × 無線(5G)の活用
- を行なっていかなければいけないと考えます。

地域			全国・海外	
住民	法人	行政	観光	
生活サービス	ICT×事業改善	ICT×地域課題改善	地域情報発信	
中核事業 放送・通信・電話				
5G 4K・8K対応 1G高速ネット 無料出張 サポート 生活支援サービス (電カ・ガス・買い物)	5G 店舗WiFi セキュリティサービス クラウドによる 業務効率化 ホームページ 構築支援	5G エリアWiFi インバウンド支援 ふるさと納税 業務支援 安心安全 サービス (LPネット等)	5G 地域プロモーション 事業 観光DMO への参画 観光アプリ開発	
ケーブルテレビ				
Goolight				

Goolightが考えるこれからのケーブルテレビ

今後も、自治体や住民との強いきずなをベースに「まちづくり会社」としての役割を担い、地域から世界へとビジネス領域を広げていきたいと思ひます。